

レジ袋有料化は本当に環境にやさしいのか

～名古屋市におけるマイバックとレジ袋税の因果関係を踏まえて～

名城大学経済学部 李ゼミナール

岩永悠・石本弘樹・青山幸生・嵐鈴奈・二村美紗稀・渡邊聖也

目次

第1章	本研究の背景と目的・・・・・・・・・・・・・・・・
第2章	環境税としてのレジ袋税・・・・・・・・・・
第3章	レジ袋税導入の経緯及び税額の決定：小売業界からの反応・・・・・・・・
第4章	レジ袋税の成果とマイバック利用の意義・・・・・・・・
第5章	レジ袋税の施行とマイバック運動の地域取り組み例・・・・・・・・ —名古屋市の事例を中心に—
第6章	レジ袋税とマイバック持参率の傾向・・・・・・・・ —名古屋市のアンケート調査結果を踏まえて—
第7章	要約と結論・・・・・・・・
参考文献	
付録	アンケート調査用紙・・・・・・・・

第1章 本研究の背景と目的

近年、化石エネルギーやプラスチックの大量使用による地球温暖化問題や海洋プラスチック問題への対応が地球規模的課題となっている。日本ではこれらの問題に取り組むための対策の一つとして、2020年7月1日からレジ袋税の全国への施行により、買い物の際にスーパーマーケットやコンビニで使用するプラスチックやビニール製のレジ袋が有料化となった。本研究では、このレジ袋有料化によって、環境への影響はどのように改善されていったのか、国民の意識はどのように変わっていったのかについて検証、考察する。さらに本研究では、環境税としてのレジ袋税の意義、レジ袋税導入の経緯及び税額の決定方法、レジ袋税の成果、マイバックの利用状況、そして名古屋市内での独自のアンケート調査を踏まえてレジ袋有料化の適正な価格設定やマイバック普及の方向性について提案する。

レジ袋有料化に関する主要先行研究に関するレビューは以下のものである。安田・横山（2001）は、レジ袋削減政策の一つである「レジ袋有料化政策」の評価を行なった。この論文では、5円のレジ袋と10円のレジ袋の需要量を計り、需要曲線の形を片側対数モデルとする需要曲線を描くことで、レジ袋削減率を計った結果、レジ袋5円/枚、10円/枚の有料化でそれぞれ約64%、87%が削減されるという実証分析を行った。安田・丸茂

（2008）は、レジ袋流通量を使用枚数で推計する手法の問題点を指摘した。レジ袋流通量は年間約300億枚といわれているが、それは、日本ポリオレフィン工業組合が2002年のレジ袋国内生産量13万トンと輸入量17.2万トンを合わせた30.2万トンをLLサイズのレジ袋重量9.9gで割った数を根拠とした数字であり、不明瞭であるという。この指摘の後、同組合も枚数方式でのレジ袋流通量発表を止めている。また、調査店舗における買い物袋持参率の実態観察調査において、「レジ袋10円」とした場合、利用者の約90%はレジ袋を購入していないことを確認した。なお、レジ袋を購入しない人の中には、買い物袋を持参せず、手で持ち帰る人、店が提供するダンボールを使用する人などが約8%いることやマイバッグを持参していても買い物量が予想を超えた場合はレジ袋を購入するケース、逆にレジ袋の再利用者がいることを確認し、マイバッグ持参率ではなく、レジ袋を購入した人の比率で見ることが妥当とした。

また、福岡ほか（2005）は、大阪市および寝屋川市において、家庭から排出されたごみ袋を実際に関開け、小袋・孫袋・曾孫袋等まで開けて、分類を行った。この結果、レジ袋は枚数比で72~74%が何かを入れて捨てた二次利用袋となっており、残り26~28%が空袋であることを明らかにした。さらに、湿った厨芥など小口まとめ袋として想定以上に二次利用されていることから、レジ袋削減には多数の消費者の合意が必要と指摘し、湿った厨芥などを乾燥させてから捨てるなどの使用抑制と分別収集に対応した代替品等の薄肉化により、現状より重量比で55~57%のレジ袋が削減可能と政策提言している。

最後に、桑原（2007）は、レジ袋生産量の推移とレジ袋の普及拡大による環境問題を分析し、大学生を対象にレジ袋削減に関する意識調査を実施した。その結果、意識をレジ袋

削減に向かわせるための因子を探り、環境に対する意識が高い人ほど、レジ袋削減に対する意識も高いので、環境教育が必要であると提言している。

以上の先行研究から、レジ袋が軽くて、水漏れしない性質と無料配布される便利さから急速に普及した実態と環境への負荷、資源の無駄などの実態が明らかにされ、削減策として、レジ袋有料化政策が有効であることが明らかとなった。一方で、削減策を追求するうえで、二次利用袋としてレジ袋が想定以上に利用されていると指摘し、多数の消費者の合意によるレジ袋の使用抑制及び薄肉化による削減可能性が提案された。本研究は、これらの考察を踏まえてマイバックの可能性と紐づけながらレジ袋税の効果について検討したうえで、名古屋市のレジ袋使用抑制政策分析とともに、名古屋市民を対象にした独自のアンケート調査結果分析に基づき、今後のレジ袋税の望ましい方向性を明らかにしたい。

本稿の内容は次のようである。まず、第2章では、環境税としてのレジ袋税の意義についてまとめる。第3章では、レジ袋税導入の経緯と税額の決定について考察し、小売業者の声をまとめる。第4章では、マイバックの現状と可能性について検討する。第5章では、実際にマイバック普及のため、名古屋市が行っている事例を示し、第6章では、名古屋地域でのアンケート調査分析により地域住民の立場からレジ袋税の成果を検証する。最後の第7章では、まとめの章として今後のレジ袋の削減とマイバックの普及拡大にむけた望ましい方向性を提案する。

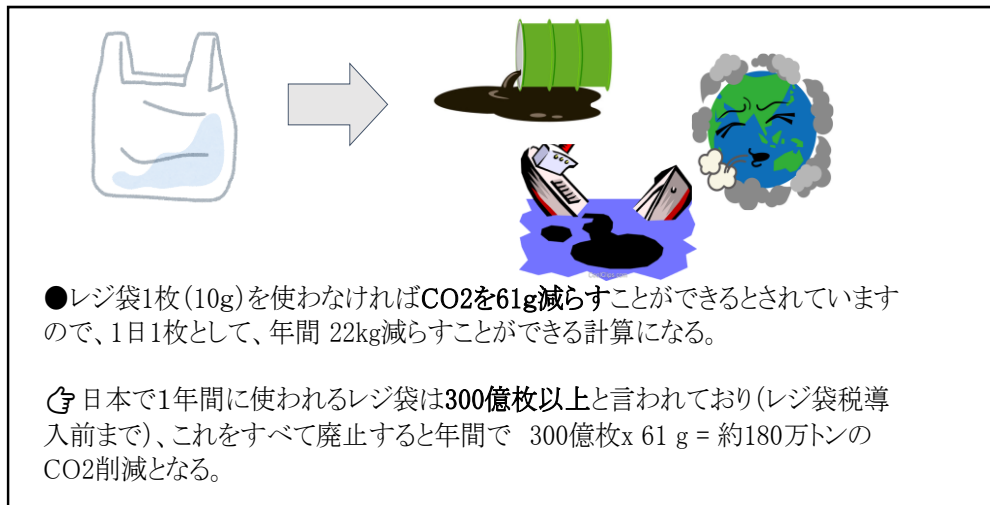
第2章 環境税としてのレジ袋税

環境税とは、一般的に環境に負荷に与えるエネルギーや原料、もしくは製品に課税をすることで、人々に環境保全を配慮するインセンティブを与える手法をさす。すなわち環境汚染問題に対して直接的な規制手段ではなく、例えば二酸化炭素などの環境に悪い影響を与える物質の排出量に応じて、税・課金など価格メカニズムを通して汚染防止をはかる経済的手段である。

レジ袋税とは、小売店等での商品購入時に、商品を持ち運ぶためのプラスチックやビニール製のレジ袋に対して課される税のことである。レジ袋税は、経済的手法で環境問題を解決するために導入される税であり、レジ袋使用による環境負荷という外部不経済が課税により経済の内部に取り込まれることが期待される。レジ袋税が環境に与える悪影響として、化石エネルギーの消費がある。私たちが使用しているレジ袋は石油から作られており、日本ではレジ袋の製造から廃棄までの過程で、年間約180万トンの二酸化炭素を排出しており、レジ袋の使用は地球環境に負荷を与えることになる（図表1）。

レジ袋税は、このレジ袋の使用量を抑制することにより地球温暖化防止を目的で課されているならば、環境税の一種であるといえる。

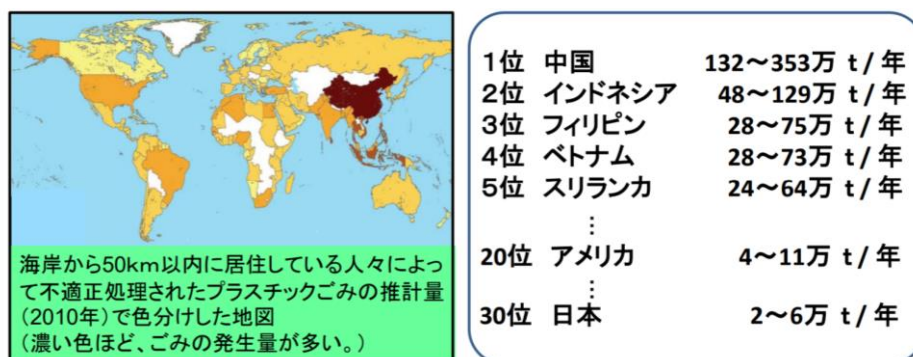
図表1 レジ袋の環境影響



出典:環境省(2021)のデータにより筆者ら作成。

次に、海洋汚染と生態系への影響がある。プラスチックごみは蓄積することで海洋生物のその周辺の住処や繁殖場所を奪う。海洋プラスチックゴミは世界全体で年間平均 800 万 t が蓄積されている (図表 2)。また、レジ袋はクジラやウミガメなどの海洋生物が餌と間違えて誤飲し、それが体内に蓄積して最悪の場合は命を奪うこともある。海に流出する世界のプラスチックごみの量は 2050 年には海洋プラスチックごみの重量が魚の重量を超えることが予測されている。この海洋プラスチックごみ問題に関する国際動向として、様々な議論や会議が加速している。レジ袋税が、レジ袋使用料の抑制を通じてこうした海洋生物を保護するために課されているのであるならば、やはり環境税の性質を有しているといえる。

図表2 世界の海洋プラスチック排出状況



出典：環境省(2019)による。

第3章 レジ袋税導入の経緯及び税額の決定：小売業界からの反応

日本でレジ袋税有料化が導入される以前から、国内外からプラスチック問題へのより責任のある取り組みへの要請が高まった。そこで、日本の政府は、世界のプラスチック対策をリードする目的で、「プラスチック資源環境戦略」を策定した（環境省,2019）。海外においてもカナダでは、「海洋プラスチック憲章」が提示されるなどプラスチックを減らす動きが加速している。中国では、「固体廃棄物輸入管理制度改革実施案」を公表し、廃プラスチックなど環境への危害が大きい固体廃棄物の輸入を、2017 年末を機に禁止するとともに、2019 年末までに国内資源で代替可能な固体廃棄物の輸入を段階的に停止する意向を示した。

レジ袋税額の決定の経緯について、2017 年に「容器包装リサイクル法」の改正によりプラスチック製の買い物袋の有料化が必須となった。小売事業を行う際には容器包装の使用の合理化に向けた（①有料化、②ポイント還元、③マイバックの提示、④その他の取り組み）の取り組みのうちいずれかを行うことが義務付けられている。日本では、今般の改正により、レジ袋（プラスチック製買い物袋）については有料化が選択された。

対象となる事業者は、主に2つに分けることができる。1つ目は、小売業を行うかである。これは、主な業種が小売業ではない事業者（製造業やサービス業など）も、事業の一部として小売行を行っている場合は対象である。例としては、製造業者や卸売業者が、製品をショッピングモールや百貨店で販売することや、美容サロンで美容グッズを販売することなどが対象となる。2つ目は、事業であるかである。これは、反復継続性などをもとに総合的に判断される。これに対象外となる例として、学園祭の模擬店などがある。

レジ袋の金額について、レジ袋の価格設定は事業主自ら行うことになっている。しかし様々な留意点がある。

- (1) 1 円以上の価格設定...1 枚当たり 1 円未満の価格設定は、有料化には当たらない。
- (2) 1 枚ごとの値付け...複数枚のプラスチック製買い物袋を提供する際、1 枚ごとに価格を設定。
- (3) 商品と一体価格の表示...商品の価格とプラスチック製買い物袋の価格を一体として表示する場合、プラスチック製買い物袋の価格が明らかとなるように提示。

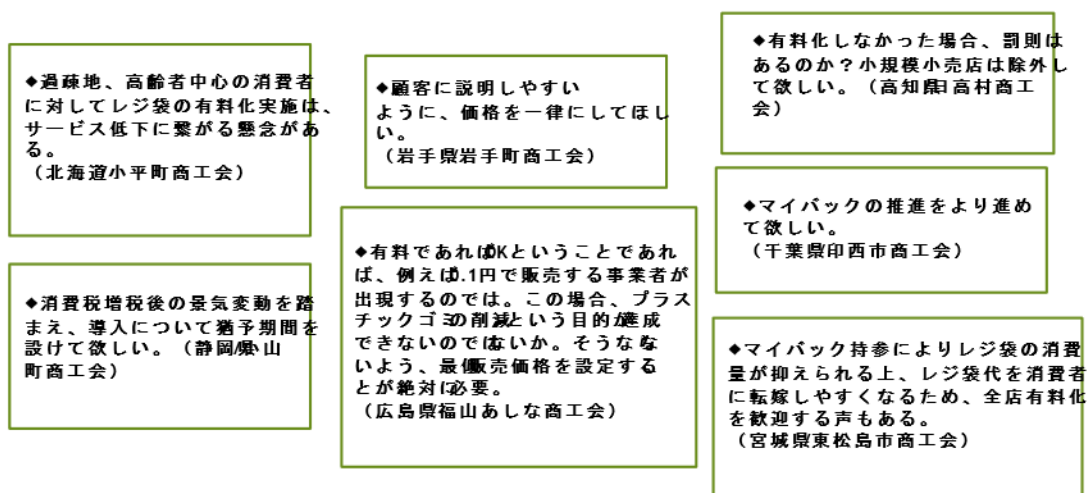
ただし、以下のレジ袋については、環境に配慮している面があり対象とならないようになっている。

- (1) プラスチックのフィルムの厚さが 50 マイクロメートル以上である。これは、繰り返し使えるため、プラスチック製買い物袋の過剰の使用抑制に寄与している。
- (2) 海洋生分解性プラスチックの配合率 100%のもの。これは、海洋で分解するプラスチックであるため、海洋プラスチックごみ問題対策に寄与している。
- (3) バイオマス素材の配合率 25%以上のもの。これは、植物由来であるため、地球温暖化対策に寄与している。

日本では、レジ袋税の全国導入前にも、一部自治体では先行的にレジ袋の有料化を図った自治体も現れた。例えば、東京都杉並区では2002年に「すぎなみ環境目的税条例」いわゆるレジ袋税条例を条例化したが、施行することはなかった。その時、レジ袋1枚あたり5円の税率を課す予定であった。ディスカウントスーパーの「OK（オーケー）ストア」は現在1枚6円（税抜）で販売しているが、きっかけは環境面ではなく、1989年4月1日に消費税の導入（3%）であった。オーケーは同日から、多くの商品ではほぼ消費税相当額の「値引き」を開始した。「西友」は2007年から、レジ袋を断ると2円引きになるキャンペーンを実施しており、2012年には有料化（Mサイズ2円、Lサイズ3円。）に踏み切った。これらはCO₂（二酸化炭素）削減を意識して、マイバッグの持参を呼びかけるものであった。

レジ袋有料化による中小企業・小規模事業者の声として、北海道小平町商工会では、過疎地、高齢者中心の消費者に対してレジ袋の有料化実施は、サービス低下に繋がる懸念があるという。岩手県岩手町商工会では、顧客に説明しやすいように価格を一律にしてほしい、広島県福山あしな商工会では、有料であればOKということであれば、例えば0.1円で販売する事業者が出現する場合、プラスチックごみの削減という目的が達成できないのではないかという声があった。高知県日高村商工会では、有料化しなかった場合、罰則はあるのか、小規模小売店は除外してほしい、そして千葉県印西市商工会では、マイバックの推進をより進めてほしい、という声があった。ただし宮城県東松山市商工会のように、マイバック持参によりレジ袋の消費量が抑えられる上、レジ袋代を消費者に転嫁しやすくなるため、全店有料化を歓迎する声もあった。（図表3）。

図表3 レジ袋有料化に関する中小企業・小規模事業者の声



出典：全国商工連合会(2019)の資料から筆者らのまとめによる。

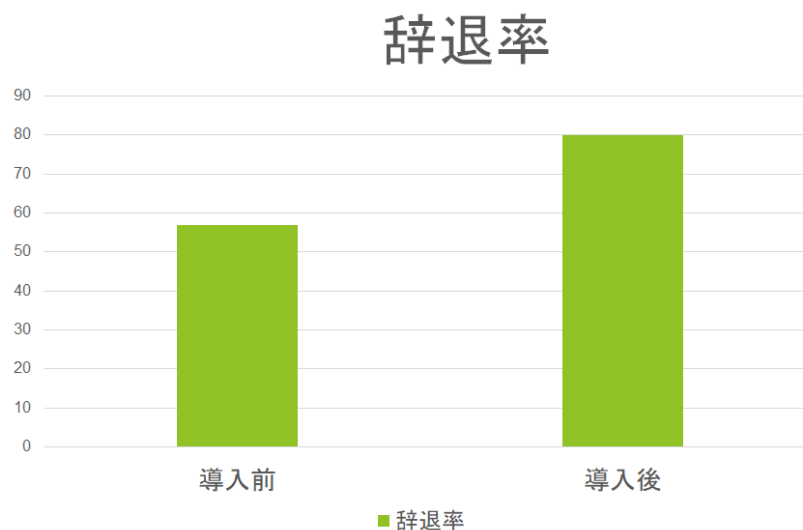
第4章 レジ袋税の成果とマイバック利用の意義

マイバック（ポリエステル 100%）とレジ袋（ポリエチレン 100%）のそれぞれ一袋の二酸化炭素排出量を比較すると、生産する時から処分までマイバックはレジ袋の約 50 倍の二酸化炭素を出すという（中日新聞,2021 年 1 月 8 日朝刊記事から引用）。つまり、マイバックの使用回数が 50 回を超えたとき、レジ袋の使い捨てとほぼ同量になる。地球にやさしいと考えるならばマイバックは繰り返し使用が必要であるということがわかる。また、マイバックの定義とは購入時に持参する買い物袋をエコバックといい、エコバックは自分のバックを持ち歩くことからマイバックと呼ばれることもある。

マイバックを使う理由として以下の 3 つが挙げられる。まずは、レジ袋が有料だからということ。次に、環境に優しいということ。最後に、値引きされるからという理由が考えられる。逆にマイバックを使わない理由としては、レジ袋が有料ではないから、マイバックの持参が面倒だから、レジ袋を家庭で利用しているからなどという理由が考えられる。

次に、レジ袋導入前と後のレジ袋辞退率を調べた。図表 4 を見ると、レジ袋税導入前と後のレジ袋の辞退率はスーパーマーケットにおいては、導入前は 57%、導入後は 80%とレジ袋税を導入したことによって 23%・ポイントもレジ袋の辞退率が増加した。次に図表 5 を見ると、コンビニエンスストアにおいて導入前は 23%、導入後は 75%と 52%・ポイントもレジ袋の辞退率が増加した。

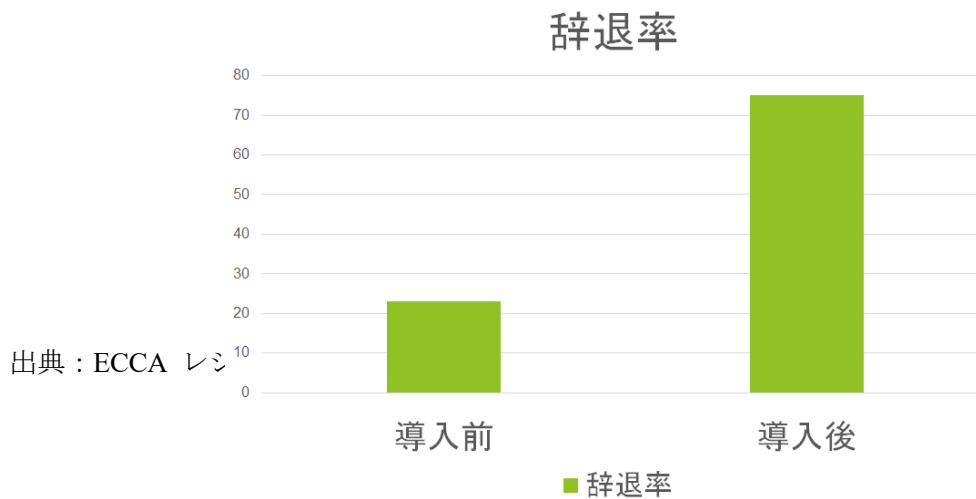
図表 4 スーパーマーケットのレジ袋導入前と後のレジ袋辞退率



出典：ECCA レジ袋有料化から 1 年 を元に著者が作成

レジ袋税導入は人々の意識を変えたという大きな意味があると考えられる。元々プラスチックごみ全体に占めるレジ袋の割合は数%程度と言われている。レジ袋有料化を義務づける際、その目的はマイバックの持参など、プラスチック製に頼っている消費者のライフスタイルの変革を促していくことであると言える。

図表 5 コンビニエンスストアのレジ袋導入前と後のレジ袋辞退率



第 5 章 レジ袋税の施行とマイバック運動の地域取り組み例 —名古屋市の事例を中心に—

名古屋市におけるレジ袋削減に向けた取り組みとして、買い物客に対してマイバック等の持参を呼びかけるとともに、レジ袋のお断り率の 60% を目指している。具体的な内容として、市民団体は、レジ袋の削減・無料配布の中止の取り組みを積極的に支援する。また、マイバック等の持参によるレジ袋削減を市民に呼びかける運動を拡大する。さらに名古屋市は、レジ袋の削減・無料配布の中止の取り組みの PR などの支援をおこなう。その効果・課題を調査し、2R 推進実行委員会に報告する。2R 推進実行委員会は、レジ袋の削減・無料配布の中止の取り組みを支援する。また、その効果・課題を調査し、課題を評価・公表することで、活動の拡大を目指している。

また、2010 年 10 月 1 日に、名古屋市緑区ではレジ袋有料化のモデル事業「エコクーびょん」がスタートした。2010 年度以降、全市で有料化を実施し、レジ袋の 60% 削減を目指している。現在の市内のレジ袋排出量は年間約 10 億枚なので、約 6 億枚を減らさなくてはならない。参加店では、店頭キャンペーンの実施、のぼりやポスターで有料化の PR を行った。また、行政職員、店従業員、緑区の保健委員やエコクーびょん PR 隊など合同で、マイバッグ宣言の署名やアンケート、マイバッグプレゼントを行い、マイバッグ持参を呼びかけた。

事業者の役割は、レジ袋の無料配布は行わず、レジ袋のお断り率の目標値を提示して実現に向けて努力すること、レジ袋収益金は環境保全活動や地域貢献活動などに還元し、その内容を公表すること、お断り率の状況などを公表する、ということ。また、市民団体の役割は、モデル店の取り組みを積極的に支援する、レジ袋削減を市民に呼びかけ、運動を拡大すること。さらに名古屋市の役割としては、取り組みの PR、その効果や課題を調査し、協議会に報告することが考えられる。最後に、協議会の役割は、取り組みの支援、そしてその効果や課題を評価・公表することなどを通して、活動の拡大を目指すこと。

また、名古屋市のレジ袋削減対策の一貫として、「レジ袋削減協定締結店」のシンボルマークが作成された。(図表 6) 平成 26 年 1 月、レジ袋削減の取り組みの周知・啓発と、有料化実施店の活動支援を目的に、公募によりシンボルマークを募集・選定した。マークは店舗等に掲示されるなど、消費者への周知とマイバック持参への協力呼びかけに役立つ

ている。

図表 6 「レジ袋削減協定締結店」のシンボルマーク



容器・包装 3 R 推進協議会・名古屋市

出典：容器・包装 3 R 推進協議会・名古屋

第 6 章 レジ袋税とマイバック持参率の傾向 —名古屋市のアンケート調査結果を踏まえて—

筆者らは、レジ袋税に対する市民の意識を把握するためにアンケート調査を行った。アンケート調査の実施期間は 10 月 26 日から 11 月 2 日であり、調査対象は名古屋市民であった。調査場所は名古屋のコンビニ、スーパー、ドラッグストアと Google フォームによるアンケートであり、回収されたアンケートは 163 枚（年齢は 10 代～60 代以上、性別は男性 68 人、女性 95 人）であった（図表 7）。アンケート内容は、本論文の文書末に付録として添付されている。そしてアンケート調査結果の分析によれば、男女の考え方の有意な差はなかったもので、男女を統合した回答結果による考察を行う。

図表 7 アンケート調査対象の年齢別分布

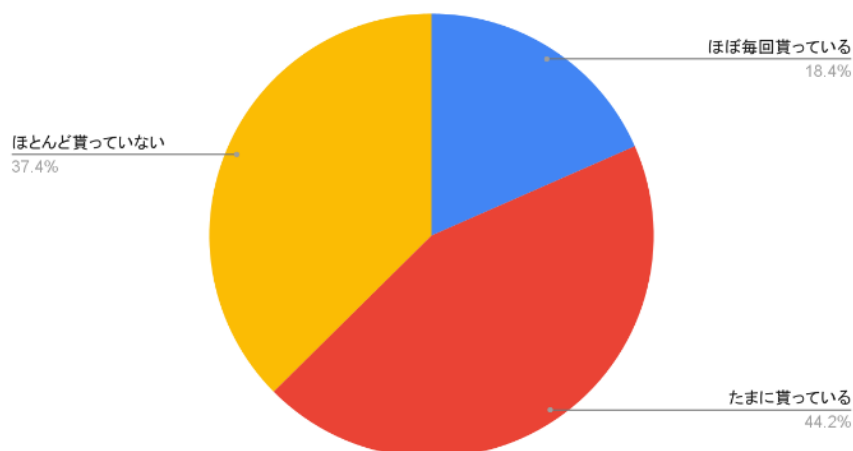
年齢代	対象人数		
	男子	女子	合計
10~20 代	53	66	119
30~40 代	7	13	20
50~60 代以上	9	15	24
合計	69	94	163

出典：筆者らのヒアリング調査による。

最初の設問（図表 8）は、買い物の際にレジ袋を貰っているかである。ほぼ毎回貰っているという答えが 18%、たまに貰っているという答えが 44%と約半分を占めており、ほとんど貰っていないという答えが 37%であった。名古屋地域で、レジ袋を貰っている率は高かったが、ほとんど貰っていない人が予想より多かった。

図表 8

Q1. あなたは買い物の際にレジ袋を貰っていますか？

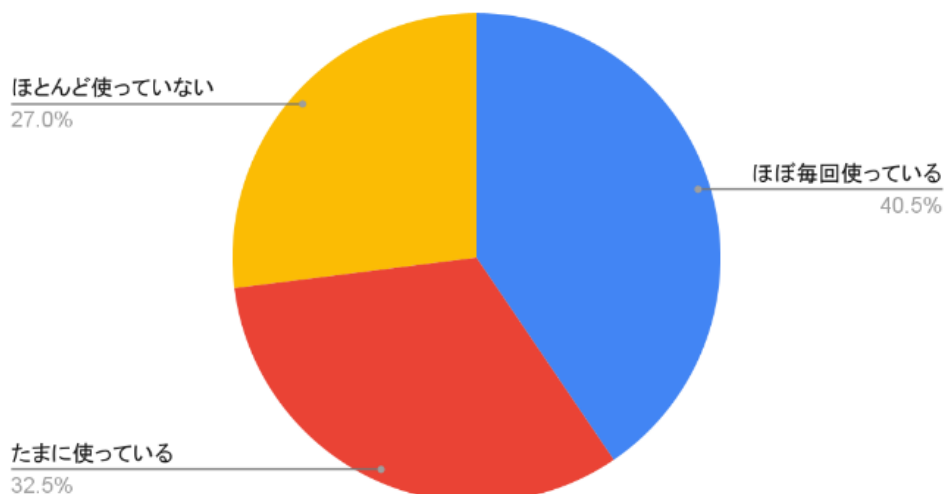


出典：著者らのアンケート調査による

2つ目の設問（図表 9）は、買い物の際にマイバックを使っているかである。ほぼ毎回使っている 44%で、たまに使っている 32%、ほとんど使っていない 27%であった。レジ袋を貰っている人は少数、さらに 3 分の 2 以上が既にマイバックを利用しているとわかる。

図表 9

Q2. あなたは買い物の際にマイバックを使っていますか？

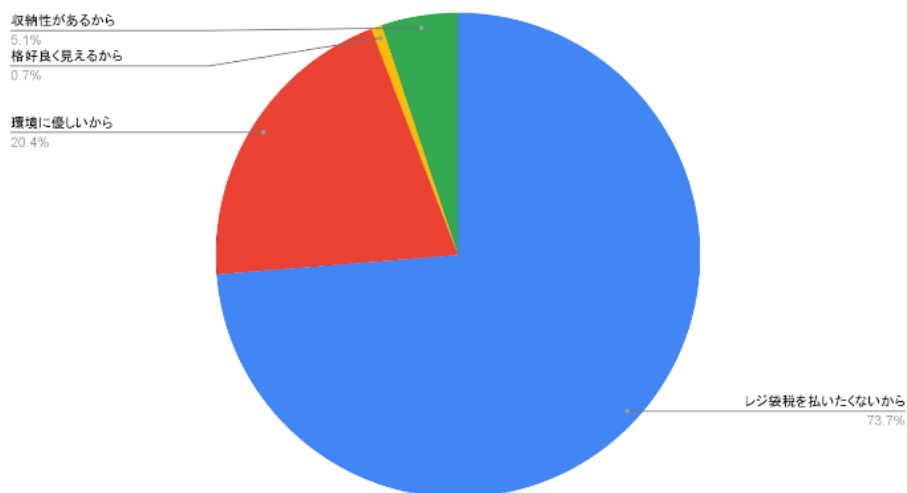


出典：著者らのアンケート調査による

3つ目の設問（図表 10）は、マイバックを使っている理由である。レジ袋税を払いたくないからは 74%で一番多い。環境に優しいからは 20%、格好よく見えるからは 1%、収納性があるは 7%であった。なるべくお金を払いたくない人が多いことが窺える。

図表 10

Q3. あなたはマイバックを使っているならばその理由は何ですか？

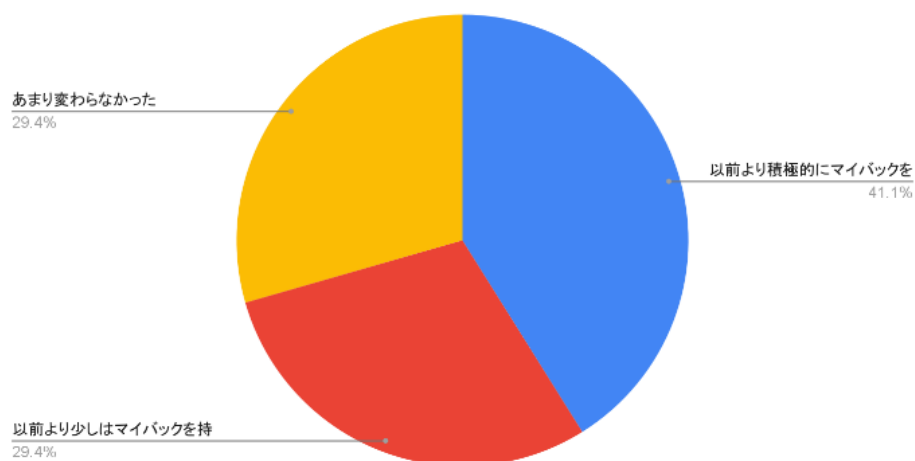


出典：著者らのアンケート調査による

そして4つ目の設問(図表 11)は、レジ袋税導入後から行動の変化があるかである。以前より積極的にマイバックを持参するようになった41%、以前より少しはマイバックを持参するようになった29%、あまり変わらなかった29%であった。レジ袋税導入後に意識が変わった人が大勢見受けられた。しかし、レジ袋税導入後も、3割程度は意識が変わらなかったことも明らかになった。

図表 11

Q4. 日本では2021年7月1日に全国的に1袋あたり2~5円のレジ袋税が導入されましたが、あなたに行動の変化はありましたか？



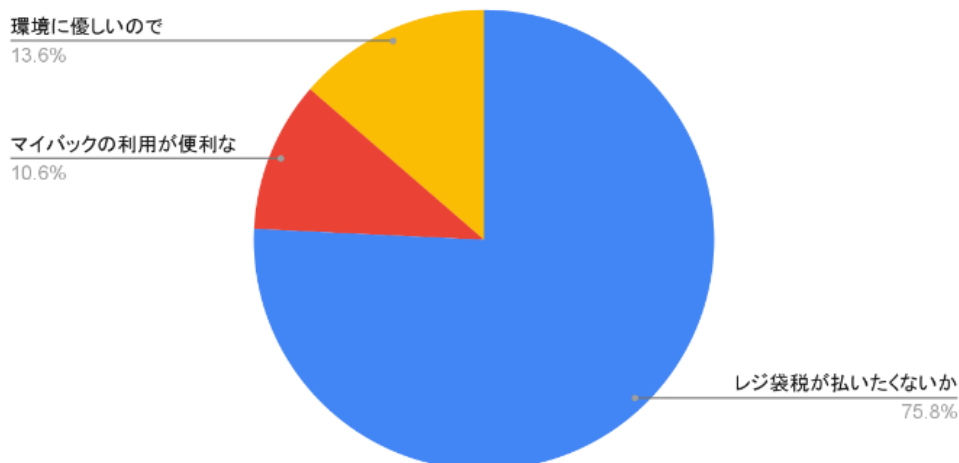
出典：著者らのアンケート調査による

4-2 の設問(図表 12)は、「以前より積極的にマイバックを持参するようになった」と答えた方に聞いた、その理由である。レジ袋税が払いたくないからが76%で大半を占めていた。

マイバックの利用が便利だから 11%、環境に優しいから 14%であった。前の設問で意識が変わった人が多く見受けられたが、環境を配慮してからが約 20%に過ぎず、お金を払いたくないからが 73%で大半を占めていた。

図表 12

Q4-2. 「以前より積極的にマイバックを持参するようになった」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか？

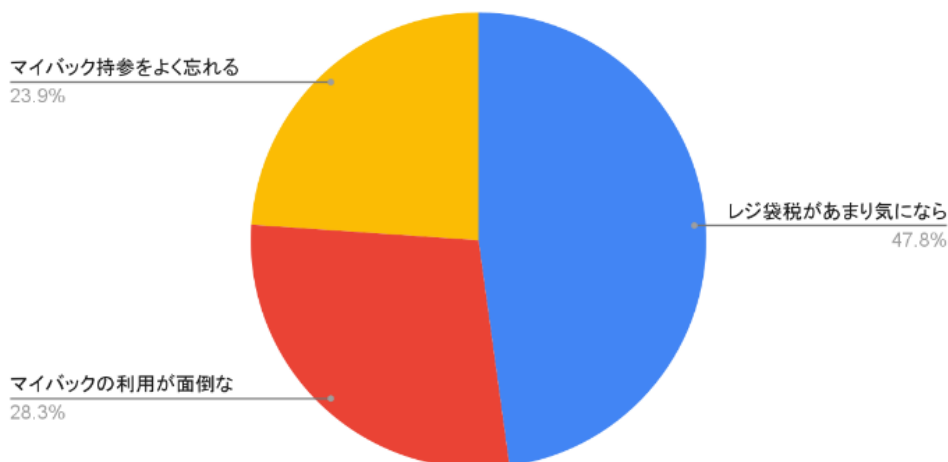


出典：著者らのアンケート調査による

また次の 4-2 の設問(図表 13)は、「あまり変わらなかった」と答えた方に聞いた、その理由である。レジ袋税があまり気にならないほど安いから 47%、マイバックの利用が面倒なので 28%、マイバックの持参を良く忘れるから 24%である。

図表 13

Q4-2. 「あまり変わらなかった」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか？

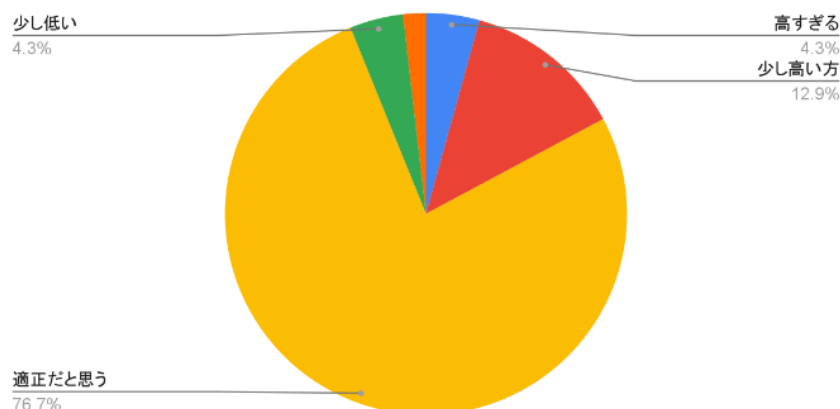


出典：著者らのアンケート調査による

さらに5つ目の設問(図表 14)は、現行の2~5 円のレジ袋税の値段についてどう思うかである。高すぎる 4%、少し高い 13%、適正だと思う 77%で圧倒的な結果である。少し低い 4%、低すぎる 2%であった。レジ袋税の価格は適正だと感じる人が大半であった。これは、税はあまり払いたくない消費者心理も反映されていると考える。

図表 14

Q5. 現行の1袋あたり2~5円のレジ袋税の値段についてどう思いますか？

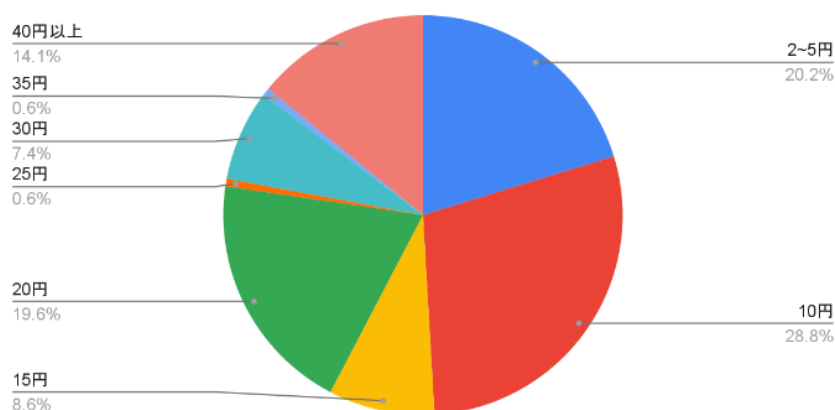


出典：著者らのアンケート調査による

最期に6つ目の設問(図表 15)は、レジ袋税がいくらならば、マイバックの持参を徹底するかである。2~5 円は 20%、10 円は 29%、15 円は 9%、20 円は 20%、25 円は 1%、30 円は 7%、35 円は 1%、40 円以上は 14%であった。

図表 14

Q6. あなたはレジ袋がいくらならば、マイバックの持参を徹底しますか？



出典：著者らのアンケート調査による

第7章 要約と結論

本章では、以上のような本研究での文献調査とアンケート調査結果をまとめたうえで、レジ袋税の方向性についての筆者らの考えを提示したい。

まず、第2章で、私たちが使用しているレジ袋総枚数は製造から廃棄までの過程で、年間150万トンの二酸化炭素を排出していることがわかり、第3章でレジ袋1枚を使わなければ二酸化炭素を61g減らすことができるため、1日1枚として、年間22kg減らすことができることがわかった。また、対象となるレジ袋にも違いがあり、実際に導入した小売事業者の声は賛否両論だった。第4章、第5章では、名古屋市のマイバックの取り組みや、店舗の導入状況からマイバック利用はこれから推し進められるだろうと希望を持つことができた。また、第6章では、レジ袋有料化を導入した結果、アンケート結果も踏まえ、レジ袋の使用率の減少と共にマイバック使用率の増加に繋がったことが確認できた。したがって、レジ袋有料化の効果ありと結論付けた。

ただし、レジ袋税1枚当たり2~5円では、意識が変わらない人も少なからず見受けられ、我々の調査ではレジ袋辞退率を現行よりさらに上げるには、20円ほどの税率が必要であることも示された。著者の考えとしては、政府が主体となって国民のマイバック利用を後押しする姿勢を示すことが効果的であると考ええる。小売事業者の声に耳を傾け、レジ袋税の在り方も見直す必要があるのかもしれない。また、マイバック利用を定着させるための具体的な提案として、レジ袋税を現行1枚当たりの2~5円から10~20円へ大胆な引き上げが今後必要であると結論付けた。

—参考文献—

【一般参考文献】

桑原宣彰（2007）、「レジ袋考」、富山国際大学地域学部紀要、第7巻、pp.121-138、平成19年3月

福岡雅子・小泉春洋・高月紘（2005）、「ごみの中の実態に基づくレジ袋削減の可能性」、廃棄物学会論文誌、Vol.16、No.2、pp.97-107、平成17年

安田八十五・横山雄介（2001）、「レジ袋削減のための買い物袋有償販売政策の評価」、第12回廃棄物学会研究発表会講演論文集、平成13年10月

安田八十五・丸茂信行（2008）、「レジ袋有料化店舗における消費者の買い物袋持参行動の測定と評価」、『関東学院大学経済経営研究所年報』第30集、pp.112-132、平成20年3月

【ウェブサイト】

環境省(2019) 「プラスチックを取り巻く国内外の状況」(平成31年2月22日第5回中央環境審議会循環型社会部会プラスチック資源循環戦略小委員会)

<https://www.env.go.jp/council/03recycle/y0312-05b.html>

環境省(2018)「海洋ごみをめぐる最近の動向」

https://www.env.go.jp/water/marine_litter/conf/02_02doukou.pdf

環境省(2019) 「プラスチック資源循環戦略」の策定について

<https://www.env.go.jp/press/106866.html>

岐阜県庁 「レジ袋削減の取組み」

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/8671.html>

財務省(2020) 「プラスチック製買物袋の有料化 ～2020 年 7 月 1 日スタート～」

https://www.meti.go.jp/policy/recycle/plasticbag/document/session_document.pdf

全国商工会連合会(2019) 「レジ袋有料化に関する中小企業・小規模事業者の意見」

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/sangyo_gijutsu/haikibutsu_recycle/reji_yuryo_wg/pdf/002_01_06.pdf

中日新聞 2021 年 1 月 8 日朝刊ウェブサイト

<https://www.chunichi.co.jp/article/181725>

なごや環境大学

<https://www.n-kd.jp/move/feature/0710.html>

名古屋市役所 名古屋市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定(その他)

<https://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000010143.html>

文春オンライン 「マイバッグはレジ袋の約 50 倍二酸化炭素をだす…「レジ袋使用は環境にやさしい」の真偽」

<https://bunshun.jp/articles/-/38284?page=5>

ECCA レジ袋有料化から 1 年～地球・私たちにもたらした影響とは～

<https://web-magazine.eccca.or.jp/column-interview/803/>

〈付録〉

レジ袋有料化とマイバックについてのアンケート調査

*多忙のところ恐縮でございます。我々は名城大学経済学部学生ですが、大学で学術目的の論文づくりの参考にさせていただきたく、よろしければ下記のアンケートにご協力をお願いできますと幸いです。

*差し支えない範囲で当てはまるものに○をつけてください。

性別 男性・女性

年齢 10代・20代・30代・40代・50代・60代以上

職業 主婦・学生・会社員・公務員・自営業・アルバイト・その他

*当てはまるものに○をつけてください。

Q1. あなたは買い物の際にレジ袋をもらっていますか。

ほぼ毎回もらっている・たまにもらっている・ほとんどもらっていない

Q2. あなたは買い物の際にマイバックを使っていますか。

ほぼ毎回つかっている・たまに使っている・ほとんど使っていない

Q3. あなたはマイバックを使っているならばその理由は何ですか。

レジ袋税を払いたくないから・環境に優しいから・格好よくみえるから・収納性あるから

Q4. 日本では 2021 年 7 月 1 日に全国的に 1 袋あたり 2~5 円のレジ袋税が導入されましたが、貴方の行動変化は？

以前より積極的にマイバックを持参するようになった・以前より少しはマイバックを持参するようになった・あまり変わらなかった

Q5. Q4 で、「マイバックを使うようになった」場合には、その理由は？

レジ袋税が払いたくないから・マイバック利用が便利なので・環境に優しいので

Q6. Q4 で、「あまり変わらなかった」場合には、その理由は？

レジ袋税があまり気にならないほど安いので・マイバックの利用が面倒なので・マイバック持参をよく忘れるので

Q7.現行の1袋当たり2~5円のレジ袋税について貴方の考えは？

高すぎる・少し高いほう・ちょうど適当・少し低い・低すぎる

Q8.貴方は、レジ袋税がいくらならば、マイバックの持参を徹底しますか

2~5円・10円・15円・20円・25円・30円・35円・40円以上

*レジ袋税に関するその他のご意見があれば教えてください。

--

～アンケートは以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。～